



E-Mail:taniyama-cc@lagoonne.jp URL:<http://www5.ocn.ne.jp-tycc/>
発行人：頭島光神父 編集委員：、上原敏子、上釜照美、徳永珠美

2021年3月1日
(毎月1回1日発行)
カトリック谷山教会
〒891-0113
鹿児島市東谷山 2-33-13
TEL・099-268-2084
FAX・099-284-5738

「主の死を思い」

カトリック谷山教会 主任司祭トマス頭島光



灰の式から四旬節が始まりました。そこから40日後、私たちは主の復活のときを迎えます。この40日間と言
う四旬節の始めに灰を被るのは、単なる回心でなく、自身の信仰の見直しの時であり、生活を見直して新た
に生き直す時でもあります。ほぼこの一年、私たちは、コロナ禍の中、日常を奪われてきました。今、考えられることは、
以前の日常に戻るのではなく新しく生き直すために初めの一步にすることです。それこそ、真の回心のとき、恵みの
ときだからです。より力強い信仰で苦境を生き抜くことができますように、共に「主の死を思い」、黙想しましょう。

◆新たな出発

四旬節の40日間を過ごす際、
私たちは、当たり前の日々の暮ら
しが、まさに恵みのときであること
に目覚めましょう。ですから、もは
やこれは、単なる回心の道だけで
なく、具体的な決意と新たな実践
を試みるときとすべきです。一番
ふさわしくない生き方が、何もし
ないという選択肢です。それはあたかも一タラントを土中
に埋めて何もしなかったあの愚かな人のようです。彼は
言いました。「ご覧ください。これがあなたの一タラントで
す」と。どんな些細なことでもいい、神様に向かって初め
の一步を、勇気を奮い起こし始めることです。



また断食は、貧しく生きることを学ぶことです。同時に
自己を放棄することで、傲慢心から逃れることができます。
こうして自我から離れることさえできれば、次に他者が見
え始めます。愛に満ちた眼差しを向け、貧しい人々を愛し
ましょう。愛の業で励むしか生きる希望はありません。

◆和解とゆるし

この四旬節の間、私たちは人
を傷つけてしまうかもしれませ
ん。また悲しませたり、怒らせ
たり、軽蔑してしまうことでしょう。
これは、私たちがどんなに気
をつけていても、陥りやすい罠と
して、あなたのすぐそばに仕掛
けられているからです。ですから、
祈る心を集中させましょう。



愛する心の傾きを、自らに方向付けましょう。意図的に意
識付けて無理やりにでも、そうすることです。和解さえで
ければ、ゆるす力を得ることになります。和解は仲直りの
力です。最初から赦そうと思っても、それは難しいもので
す。

◆愛は無くならない

最後まで残るのが愛です。また他人の人生を変えられる
のも愛であり、些細なことさえ愛さえあれば、幸せに変わ
ります。四旬節に愛を生きる。それだけで、見捨てられ
た人には喜びが、拒絶された人には慰めが、貧しい人
には豊かさが、神によって満ち溢れさせてくださるはず
です。

◆信・望・愛

こうした私たちの信仰を生きる旅は、四旬節に始まりま
した、実際、その目的は、復活の主イエスに出会うこと
です。イエス様は、あえて苦しみを選び歩まれました。
それは私たち罪人を復活に至る道へと招くためです。イ
エス様は、またその苦難の途上にある私たちと共に歩ん
で下さいます。そして、喉が乾いたら「生きた水」を飲ませ、
私たちを死の闇から蘇らせ、新しい人としてくださいます。
これこそ信望愛の神秘です。いつの間にか、新しい人とさ
れた私たちはキリストを信じ、希望し、愛する者となったこ
とに、気付かされます。

◆祈り、断食、節制



四旬節には、これら三つの業を行います。まずは祈りま
しょう。祈ることで、心に充満してしまった悪を沈殿させま
しょう。罪を浮き上がらせ、心の外に投げ捨てましょう。こ
れは、祈りなしにはできないことです

今月の聖人から

3月19日(祭日) 聖ヨセフ

聖母マリアの夫、イエス・キリストの養父であるヨセフは、ユダヤの王ダビデの子孫であった。

ヨセフは、新約聖書に記されているように「正しい人」であり、結婚する前にマリアが身ごもっていることを知ると、それを表ざたにすることなく、縁を切ろうとした。しかし夢に現われた天使が、マリアを妻として迎え入れ、マリアの産む子をイエスと名付けるようにとヨセフに告げたので、イエスの養父としての使命を担ったのである。(参照 マタイ1.18~24)。

ヘロデ王が幼な子イエスを殺そうとしている計画を夢で知らされると、マリアとイエスを連れてエジプトに避難し(参照マタイ 2.13~15)、またイエスを神殿に奉獻するためにエルサレムに行き(ルカ 2.22~38)、イエスが12歳のときに、エルサレムからの帰路でイエスを見失ったときは、マリアとともに心配した。彼はガリラヤのナザレで、大工生活を営みながらイエスに労働の大切さを教えた。ヨセフはイエスが30歳になる前に亡くなったと言われている。(女子パウロ修道院、今月の聖人より)



聖アルフォンソ合唱団から

団長・伊藤祐久

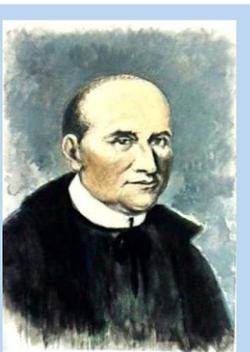
2019年末より日本はもとより全世界で新型コロナウイルス感染症が広がり、そのため主日のミサも感染予防のために典礼聖歌もカトリック聖歌も歌うことが出来なくなりました。寂しい限りです。ムイベルガ神父様は「歌は祈りです」という考えで、2006年に聖アルフォンソ合唱団を作られました。日曜日のミサの後、皆でモーツァルトやハイドンのミサ曲を中心に練習し、谷山教会でも年に2回、ミサの中でオーケストラと一緒にミサ曲を歌い、また熊本や長崎、福岡、山口、大分の教会でもミサの中でミサ曲を歌わせて頂きました。そして令和1年10月に永年の夢であったザビエル教会で、モーツァルトの戴冠ミサを歌わせて頂きました。その後、新型コロナのため、演奏活動は自粛せざるを得なくなりました。ただ歌いたい、皆様に聞いて頂きたいという思いは強く、頭島神父様のお許しを頂き昨年12月22日(日)のミサの後、ミニクリスマスコンサートを開く事ができたことは大きな喜びでした。現在は月に1回、感染予防に留意して大きな声では歌えませんが、活動を続けています。一日も早く大きな声で歌える日が来ることを皆で祈っています。



聖アルフォンソ合唱団バッジ

3月15日(記念日) レデンプトール会の聖人
聖クレメンス・マリア・ホフバウアー司祭

「**樅の木の人**」と呼ばれるほどの強い信仰を持ち続けた聖クレメンス・ホフバウアーは、教会史の中でも名高い司祭です。ドイツ人として初のレデンプトール会員となり、三十五歳で、司祭に叙階された彼は、当時、戦争の荒廃と分割にあえいでいたポーランドのワルシャワで修道院を建て、孤児の救済に奔走した人物でした。また、辻説教などを通して、うちひしがれた人々の霊的な援助にも努力を惜しみませんでした。



しかし、独立戦争の気運が高まり、ナポレオンが進軍するにおよんで、ポーランドを追放され、ウィーンにたどり着きます。しかし、ここでも彼は孤児院を開設、学校を作り、病床にある兵士たちを励ます活動を精力的に行いました。やがて、すべての階級の人々に親しまれるようになり、風前の灯火だったこの街のカトリック信仰を再び燃え立たせることに成功したのです。この成果から彼は、「**ウィーンの使徒**」とも称され、1909年、聖人に列せられました。聖クレメンスがいなければ、レデンプトール会は現在のように全世界にあまねく広がることはなかったでしょう。彼は、それまでイタリア国内でのみ活動していたこの修道会を、はじめてアルプス山脈の北側に導いた会員です。1820年3月25日に帰天。遺体は現在、ウィーンのマリア・シュテューゲン教会に安置されています。(頭島神父様提供)

りんごとクリームチーズのミルフィーユケーキ

準備

- ・りんごは芯を取り4等分、皮をむいて縦2~3mmの厚さの薄切り(紅玉なら皮つきで可)
- ・型にクッキングシートを敷き、オーブン160℃に予熱
- ・調理器具
ボール、泡立て器、包丁、ゴムベラ、スクエア型、竹串

材料(ケーキ1個分:18×18×6 スクエア型)

- ・森永ホットケーキミックス…1袋(150g)
- ・りんご(あれば紅玉)…4個(正味600g)
- ・クリームチーズ…200g
- ・砂糖…80g
- ・卵(Mサイズ)…5個
- ・レモンの絞り汁(またはレモン果汁)…大きじ1
- ・シナモン…3g



作り方

- [1]ボールにクリームチーズを入れて泡立て器でなめらかになるまで混ぜ、砂糖、卵、レモンの絞り汁の順に加え、その都度混ぜ合わせる。
- [2][1]に森永ホットケーキミックスを加えて混ぜ、りんご3個分を加えてゴムベラで混ぜ合わせる。
- [3]クッキングシートを敷いた型に[2]を流し入れ、残りのりんごを並べてのせる。
- [4]160℃のオーブンで1時間~1時間10分焼く。出来がったら、そのまま冷蔵庫で冷やしシナモンをかける。

2021年3月の<公開ミサ>の予定と典礼奉仕のお願い

◆四旬節に入り、2月最後の土日に、黙想会も行える運びとなりました。新型コロナウイルス感染症拡大を阻止する有力なワクチン接種もいよいよ始まります。また同時に少しずつではありますが、ウィルスの勢いも衰え始めたかのようにも見えます。しかし予断は禁物です。できうる限りの策を講じ、復活の時を恵み豊かにお迎えすることができますよう祈りましょう。以下、3月の典礼奉仕も引き続きご協力お願いいたします。

◆主日ミサは日曜の9時ミサのほか前晩のミサ(午後7時)と早朝のミサ(午前6時半)があります。分散して参加して下さい。

◆入堂前には必ず手指消毒とマスク着用でお願いしています。

◆三密回避として聖堂入場を50人までと制限しています(*典礼奉仕を除く)。

◆制限を超える場合は玄関ロビー、泣部屋は子ども連れ家族のみとします。

◆聖堂内では白印を前に、ご着席ください! ◆換気・加湿を同時に行っています。

◆聖体拝領は一列に並び前後間隔を1m以上あけて前へお進みください。

■3月の典礼奉仕の先唱及び朗読の役割分担は以下の通りです。

◇ 3月7日 四旬節第3主日 午前9時~ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕 ● 6, 7班

◇ 3月14日 四旬節第4主日 午前9時~ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕 ● 8・9班

◇ 3月21日 四旬節第5主日 午前9時~ライブ配信ミサ 先唱及び朗読奉仕 ● 10班

◇ 3月28日 受難の主日(枝の主日) 午前9時~ライブ配信 先唱及び朗読奉仕 ● 1班

聖なる過越の三日間の典礼奉仕は未定ですが、3月14日の司牧評議会で話しあいましょう!

□ 4月1日(聖木)「主の晩餐の夕べのミサ」午後7時~ライブ配信 先唱及び朗読奉仕

□ 4月2日(聖金)「主の受難」十字架礼拝午後7時~ライブ配信 先唱及び朗読奉仕

□ 4月3日(聖土)「復活徹夜祭」 午後7時~ライブ配信 先唱及び朗読奉仕

★「すべての命を守るために」今、私たちにできる行動は感染症拡大で排除され、忘れ去られ、さらに不正や不公平な仕打ちを受けている人々です。排除や無関心は捨て去り、互いに支えあい、祈りの内に連帯し、希望の光で照らし、愛の手を差し伸べよう。

神に感謝! (2021/1/24) 主任司祭 トマス頭島光